

検討の観点と内容の特色

書名	改訂 化学基礎	教番	2 東書・化基 002-901	判型・ページ数	B5 変型判・242 ページ
----	---------	----	-----------------	---------	----------------

項目	観点	内容の特色
内容の選択・程度	- 学習指導要領の教科の目標を達成するため必要な教材が適切に用意されているか。 - 基礎的・基本的な知識・技能の理解や習得のための適切な配慮がなされているか。 - 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を育成するための適切な配慮がなされているか。 「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう編集されているか。 - 発展的な内容の取り扱いに対する適切な配慮がなされているか。	- 高等学校理科学習指導要領の「目標」「内容」及び「内容の取扱い」に示された事項のすべてについて不足なく取り上げている。 - 本文の随所に「問」「例題・類題」が設けられており、学習事項の確実な定着が図られるように工夫されている。 - 各章末には「まとめ」が2ページと「章末問題」が配置されており、基本的な学習内容の定着が図られるように工夫されている。また、思考を要する問題には「思考マーク」が付記されている。 - 巻末には「総合問題」が設けられている。複数領域にまたがり、知識をつなげて考える問題が掲載されており、知識を活用する力や表現力を養うことができるように工夫されている。 - 教科書の構成は探究の過程に沿っており、生徒自らが課題を見いだして、探究的に学習が進められるように工夫されている。 「実験」は、実施しやすく結果が出やすい内容を厳選して取り上げ、生徒自らが実験を行い、結果を分析、解釈してまとめ、科学的に探究する力を育成できるように工夫されている。 - 節の冒頭には「Let's start!」が配置されており、身近な自然や日常生活とのつながりを実感できる内容から導入し、学習への意欲を喚起できるように工夫されている。 「発展的な学習内容」が適所に設けられており、学習を深めることができるように配慮されている。「発展的な学習内容」には「発展」マークを付し、必修の学習内容とは明確に区分けされている。 - 基礎的な内容をさらに深く理解するために、「コラム」「PLUS」が適宜設けられている。また、大学でも活かせるより深い知識と理解が得られるように、巻末には「Premium PLUS」が設けられており、学習の深化が図られるように工夫されている。
組織・配列・分量	- 内容の組織・配列は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。 - 分量は学習指導を有効に進められるように考慮され、精選されているか。 - 中学校との接続や他科目との関連など、カリキュラム・マネジメントに対する配慮がなされているか。 - 弾力的な取り扱いに対する配慮がなされているか。	- 序章「化学とは何か」では、写真を中心に暮らしと化学との関わりを考えながら、「探究の過程」について考える内容で構成されており、生徒に学習への興味や必要感を喚起するための授業のオリエンテーションとして利用できるように工夫されている。 - 終章「化学が拓く世界」では、学習内容を活かして暮らしや社会を化学の視点で見直すことができるように構成されており、化学を学ぶ意義を実感できるように配慮されている。 - 本文は簡潔で、内容が精選されている。また、「実験」は実施しやすく結果が出やすい内容に厳選されており、生徒が無理なく学び、理解できる内容・分量になっている。 - 節の構成は「Let's start!」→「？」(学習の問い)→「(実験)」→本文→「！」(この節のポイント)」で構成されており、生徒が主体的に課題を見いだして学習を進められるように工夫されている。 - 中学校での既習の内容には「復習」マークを付け、効果的に復習ができるように工夫されている。また、二次元コードで中学校理科教科書の「学習のまとめ」の紙面を確認したり、学習内容を整理した問題で復習したりできるように工夫されている。 - 学習内容を「本文」「コラム」「PLUS」「PLUS (思考の扉)」「発展」「Premium PLUS」に区分けして、学習内容に軽重がつけやすいように配慮されている。「PLUS (思考の扉)」は、思考を要する問題を解きながら理解を深める内容で、大学入試対策としても使える。
表記・表現及び指導に対する工夫や配慮	- 学習意欲を高めるための配慮がなされているか。 - 個に応じた指導への工夫がなされているか。 - 生徒の自学自習への配慮や工夫がなされているか。 - 持続可能な社会をつくる力を育成するための工夫がなされているか。 - 用語・記号の取り上げ方や記述のしかたは適切か。 - 文章、図やイラストは、分かりやすいものになっているか。 - コンピュータやインターネットなど、ICTの効果的な活用への配慮や工夫がなされているか。 - 指導書や周辺教材での工夫や配慮がなされているか。	- 終章「化学が拓く世界」では、「化学基礎」の学習内容が日常生活や社会とつながっている例を取り上げている。 - 節ごとに「？」(学習の問い)と「！」(この節のポイント)が設けられており、生徒が課題意識をもって学習が進められるように工夫されている。 「問」「類題」「章末問題」「総合問題」の解答・解説は、巻末に掲載されており、自学自習への配慮がなされている。 - 実験には、事故防止のための注意マークを目立つように付されている。 - 化学を学習する上で不可欠な、指数計算や有効数字の扱いなどの数学的内容を、巻末に資料として取り上げており、数学用語・記号の扱いで支障を生じることがないように工夫されている。 - 文章は簡潔でわかりやすい表現になっている。また、鮮明でわかりやすい図や写真が、本文の記述と関連する箇所にふんだんに盛り込まれている。 - 中学校での既習の内容、実験の方法や結果、教科書の図版だけでは理解しにくい内容などについて、二次元コードで情報を収集したり、動画で確認したり、アニメーションなどで理解を深めたりできるように工夫されている。 - 指導資料については、「授業プリント」や「デジタル板書」、「動画」などのデジタル教材が充実しており、ICTを活用した授業に対応している。オンラインでの授業への対応も可能である。

印刷・造本の 配慮	・印刷の鮮明さ、活字の大きさ、行間、製本などは適切か。 ・環境保全や生徒の多様な特性に対して配慮しているか。	・製本は針金を使用せず接着剤で製本してあり、金属を使用しないことによるリサイクル性を重視している。 ・本の中心までページを開くことができる製本のため、生徒が使いやすくなっている。 ・生徒の負担に配慮し、紙は品質を保持しつつ軽量の紙を使用している。 ・用紙には再生紙を、インキには植物油インキを使用している。 ・レイアウト、色づかいなど、ユニバーサルデザインに配慮されている。また、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを使用している。
総合所見	・上記観点からみた、全体的・総合的な当教科書の特徴。	・日常生活の中の気づきや自身の中に生まれる疑問から考えさせ、知識を習得させることで、化学の本質に気づき、知的好奇心を刺激し、より深く学び続ける力がつく教科書である。 ・「例題・類題」や「思考の扉」、QRコンテンツなどを活用することで、基礎基本の徹底から大学入試まで対応できる教科書である。